



父母と学ぶ会だより

NO. 17 研修報告号～H26年9月発行



～応用行動分析による障害のある人の問題行動の軽減と適応行動の形成～

講師 専門行動療法士 福永博文 H26年7月 静岡県知的障害者福祉協会心理学講座(全3回)

例えば「衣服を破る」「物を投げる」「人を叩く」…これらの行為は問題行動と言われ、その行動だけが強く主張されてしまいがちです。

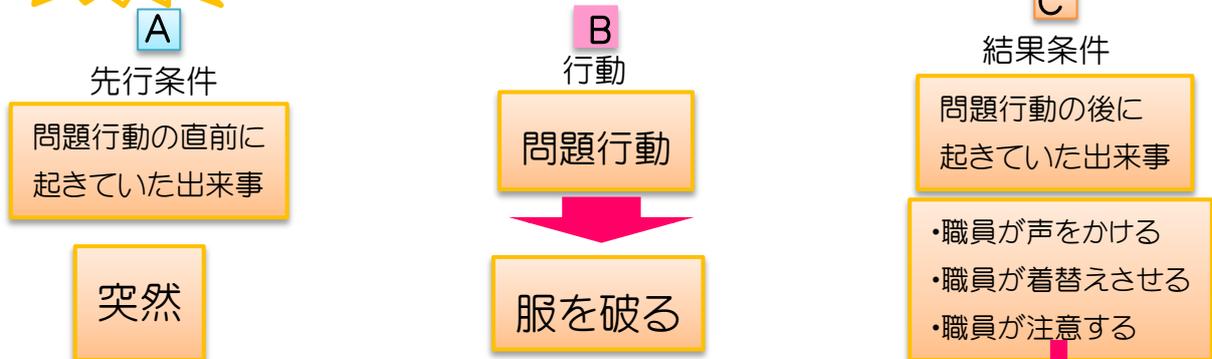
しかし不適応な行動は生まれつきではなく、何らかの原因が必ずあるのです。

誤って学習された行動を修正または除去をし新たに学習をし望ましい行動を増加させて適応行動をとることができるよう行動分析を試みましょう



事例

突然、奇声を発し衣服を歯や手で破る



Aは原因が特定されないが分析してみると…もしかして？

- ・衣服が気に入らない…気に入った服でないと嫌だ
- ・服が窮屈…苦しい、痛い
- ・暑い…脱ぎたい
- ・欲求不満がある…意志を言葉で表現できない
- ・心理的安定…破衣行為をすることで心が安定するなど

Cの職員がとった行動により

- ・職員が声をかけてくれる、服を着せてくれる、注目してくれる、来てくれる
- その結果 誤って学習された行動が強化され悪化してしまう



④不適応行動が生起しないことを強化するためには破衣行為がない時に行う

〈衣服が気に入らない場合〉服を着ていることを誉める「似合うね」「かっこいいね」など職員の対応は統一する

〈欲求不満がある場合〉破衣行為がコミュニケーション手段になっているため他のことに興味を転換させる

〈心理的安定〉集中できることは何か色々試す(本、散歩、絵、貼り絵、色塗りなど)

興味、関心を発見するには家の方に幼少時代の話や何かヒントがあるかもしれません。

問題行動を0にしなくてはならないのではなく軽減させることを目標にし、

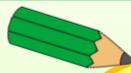
長い時間をかけスモールステップでその人に合った方法を考え見つけていくことが大切です。

『その人を変えようとするのではなく、周囲の環境を変えようとする』という視点が重要で

「ひょっとしたら自分がどの行動を起こさせているのかもしれない」と、自分の行動を冷静に判断し、

利用者が落ち着いて過ごせる環境へ導く支援をしていきたいです。

(文責 鈴木 美由起)

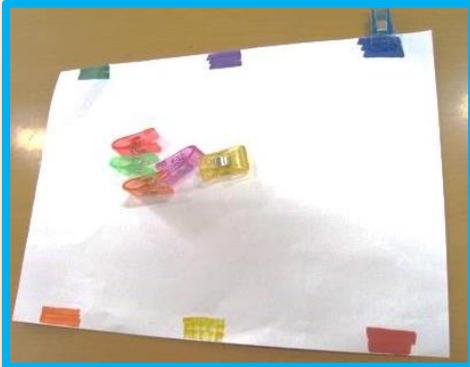


新人研修の報告 その1

新人研修ということで昨年から（財）日本知的障害者福祉協会発行の「はじめて働くあなたへ—よき支援者を目指して—」という本を読みながら勉強会を月に2、3回開催しています。今回は8月1日に行った自立課題の個人発表の様子を報告します。

「あなたのカラー」 林 祐太

PR ポイント



- ○○さんの好きな色を使いました。
- 誰かと何かをやることで気持ちが盛り上がります。
- 確実にできて自信のつく課題にしました。

感想

- もう少しステップアップしてもいいのでは？
- 確実にできる課題を提供するのはむずかしい。
- 6個というすぐにできる数がいい。

「くじけそうになった時」 鈴木 美由起

鈴木 美由起

暑いとトランポリンや音楽で途中で足が止まってしまう○○さん。目標の1500歩を歩けるように本人の好きなアイドルを使いました。
⑩でゴールにし、ゲーム感覚でできるようにしました。

感想

- 本人の好きなアイドルを使っているところがいい
- コメントなどの工夫がいい
- たまったらごほうびがもらえるとやる気が増す
- ラインストーンが可愛い
- やる気が出そう



「笑顔で帰ろう」 栗田 百江

栗田 百江



帰りのバスを待つ時間の過ごし方が自分でもわかり、楽しくすごせるスケジュールボードを作りました。ポイントはゲーム内容と飲み物を選ぶようにしたところです。

感想

- 自分で選べるものがあるところがいい
- その人への愛を感じる